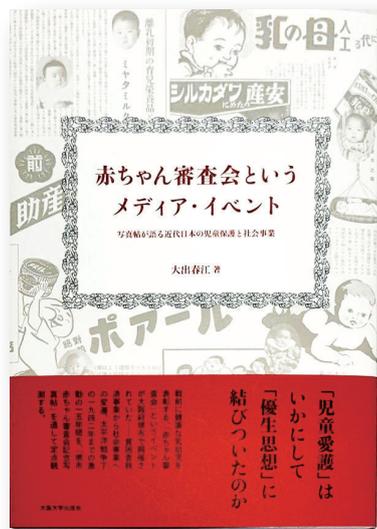


新収蔵資料抄



最寄り図書館に取り寄せ可

赤ちゃん審査会というメディア・イベント

写真帖が語る近代日本の児童保護と社会事業

大出 春江／著 大阪大学出版会 2022.2 363p 26cm

498.7/ネ 22 2022.5.20 受入 定価 5,800円＋税

目次

はじめに / 凡例

- | | |
|---|--|
| <p>第Ⅰ部 「産む」ことをめぐる制度の変遷と赤ちゃん審査会</p> <p>第一章 赤ちゃん審査会がめざしたもの—くり返された「世界一高い乳児死亡率の防遏」という目標</p> <p>第二章 「健康」「衛生」概念の普及とメディア・イベントとしての赤ちゃん審査会</p> <p>第三章 産院の時代—1920年代施設型出産の定着から国民医療法による制度化まで</p> <p>第四章 社会事業と産師法（産婆法）制定運動</p> | <p>第Ⅱ部 堺市赤ちゃん審査会記念写真帖「堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖」について</p> <p>お産と育児の展覧会・乳幼児審査会 記念写真帖</p> <p>第二回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>第四回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>第五回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>第六回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>第七回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>第八回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>紀元二千六百年・第拾壹回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>紀元二千六百年一年・第拾貳回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> <p>大東亜戦争一周年・第拾参回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖</p> |
|---|--|

参考文献

初出一覧 / 謝辞 / 索引

著者紹介

大出 春江（おおで はるえ）
大妻女子大学人間関係学部教授。
専攻は社会学。
主著に『産婆と産院の日本近代』（青弓社、2018年）、編著に『看取りの文化とケアの社会学』（粹出版社、2012年）、共著に『産み育てと助産の歴史—近代化の200年をふり返る』（医学書院、2016年）、『歴史と向きあう社会学—資料・表象・経験』（ミネルヴァ書房、2015年）など。

資料概要

大正から昭和の初期にかけて「赤ちゃん審査会」という催しが行われた。本書は、堺市に残された記録（写真帖）を通して、この催しの社会的背景や意義を考察する。

審査会の呼称はさまざまだが、私立帝国小学校校長の西山哲治が企画した「赤ん坊展覧会」がその原点とされるという。当時の日本は乳児死亡率を下げるのが国家の課題の一つだったために、日本社会に根付いていなかった児童保護や児童愛護、児童相談、衛生、健康などの概念の普及が急務だった。内務省は展覧会にその普及を後押しする効果を期待して全国に広めていき、その結果、赤ちゃん審査会は、健康な乳幼児とその家族と医師とを結びつけるメディアとなった。

著者は、堺市赤ちゃん審査会記念写真帖（帳）から、産婆（助産師）の社会的な地位や、医師との関係なども見て取る。産師法（産婆法）案制定の紆余曲折、妊産婦保護の場所の呼称の変遷などからも、関係者、関係団体による一種のパワーゲームがあったことを丁寧に描き出している。

しかし、赤ちゃん審査会の児童愛護の理念は、戦時体制の中で次第に「健民強兵」、「健児報国」などと接続して、国家の良質な人的資源として健康な乳幼児を増やそうとする国民意識へと変わっていく。

著者はこの不幸を「…国家プロジェクトの達成に医師や産婆、看護婦、保健婦ら専門職者はその職務を通じて貢献することで戦争に動員され、自らもまた人々を翼賛体制に動員していった…」と悔恨の気持ちを込めて記している。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

